

災害時用の備蓄物資を整備しています！

御坊市では、災害時の備蓄物資の量を「津波浸水想定区域内の人口12,500人×1日分」を基準として、平成28年度から平成32年度までの5年間で、御坊・湯川・藤田・野口・塩屋・名田地区の拠点避難所である学校等に整備します。

平成28年度は、御坊・藤田小学校、湯川中学校に備蓄物資の整備を行いました。平成29年度からは、野口・塩屋・名田地区の学校等に備蓄物資を整備していきます。

◇備蓄物資の品目

アルファ米、飲料水、ビスコ、乾パン、乳児用オムツ、大人用オムツ、女性用ナプキン、毛布、寝袋、組立トイレ、トイレ処理剤など



▲備蓄物資が入った防災倉庫(藤田小学校)

避難場所・避難路を事前に決めておきましょう！

地震発生時には、災害の脅威から身を守るために緊急避難場所へ避難しますが、その際、事前に複数の避難場所・避難路を考えておくとともに、避難場所に優先順位をつけておくことが自らの命を守るためにとても重要になります。

◇なぜ複数の避難場所・避難路を決めておくのか

津波からの避難の際、地震の揺れで怪我をした、想定していた避難路が使えないなど、様々な理由で事前に決めていた避難場所へ避難する時間が足りない場合があります。

このような場合、事前に複数の避難場所を決めていないと、冷静な判断ができずに津波の危険性が高い場所に避難をしてしまったり、避難場所を再度考え直すことで避難する時間を失くしてしまうかもしれません。

◇避難場所の優先順位について

一般的に、津波から避難する際の緊急避難場所の優先順位は、「津波浸水想定区域内の避難ビル＜津波浸水想定区域外の避難ビル＜高台」となります。

これは、高台では陸続きにさらに高い場所や遠くへ避難できるのに対して、避難ビルへの避難だと、津波火災の発生や想定以上の高さの津波が来た際に逃げ場を失ってしまうからです。

なお、地震の揺れで避難路が使えず、高台に避難できない場合も考えられますので、事前に避難ビルなども含めた複数の避難場所を考え、優先順位を決めておきましょう。

複数の避難場所・避難路を事前に考えておき、様々な状況に対応できるようになっておくことが、自らの命を守るためにとても大切です。



高台まで避難する時間がある場合は、近くの避難ビルへ向かうのではなく、まずは高台を目指しましょう。

